



# 第158回 ロシア革命②

## 1 ボリシェヴィキ独裁の開始

・十月革命で臨時政府を倒したボリシェヴィキと社会革命党左派は、1917年11月、  
( ) を開いてソヴィエト政権を樹立した。

※議長にレーニン、外務人民委員に ( ) が就任した。

- ・ソヴィエト政権は「 」を發表し、無併合・無償金・民族自決を原則として、戦争をやめることを全交戦国に訴えた。  
→列強に無視されたため、ロシア帝国時代の秘密条約を暴露した。  
→アメリカ大統領ウッドロー=ウィルソンは、「十四カ条」によって布告に対抗した。
- ・また同時に土地の私有権廃止を含む「 」を發表した。

- ・しかし1917年11月の男女普通選挙で選出された ( ) の過半数を、ボリシェヴィキではなく ( ) がしめた。  
→ボリシェヴィキを率いるレーニンは、憲法制定会議を武力で解散させた。  
→事実上、 ( ) が成立した。

- ・1918年3月、ドイツなどとの間に ( ) を結んだ。  
→ポーランドなど多くの領土を失ったが、第一次世界大戦からの離脱に成功した。
- ・1918年3月、ボリシェヴィキは ( ) に改称された。
- ・1918年3月、首都がペトログラードから ( ) へうつされた。  
→1924年、旧首都のペトログラードはレニングラードへと改称された。



レーニンとトロツキー



トロツキー

左がレーニン、右側の敬礼している人物がトロツキー。元はメンシェヴィキで、二月革命後に亡命先のアメリカからロシアから帰国した。



モスクワ

現在もロシアの首都である。ソ連の政府中枢は、クレムリンと呼ばれるいくつかの宮殿内に置かれていた。



ブレスト=リトフスク条約

列車でブレスト=リトフスクに到着し、ドイツ兵(角つき兜の兵)に出迎えられるトロツキー(左の黒服の人物)。



## 2 革命後の内戦と対ソ干渉戦争

・ロシア革命後、ロシア帝国に属していた軍人やボリシェヴィキに反対する勢力は、各地で白軍（反革命軍）を結成してソヴィエト政権に対抗し、激しい内戦となった。

・また革命の拡大を恐れる諸外国は、捕虜となっていたチェコ兵の救出を口実に、第一次大戦中からソヴィエト政権を打倒するための（ ）を行った。  
→特に（ ）では、（ ）も最大兵力を派遣した。  
→またポーランドもウクライナに侵入し、ポーランド=ソヴィエト戦争となった。

・ソヴィエト政権は、秘密警察の（ ）や（ ）を組織した。  
→反革命軍や外国軍を撃退することに成功し、革命に反対する運動を弾圧した。  
・また 1918 年からは、（ ）と呼ばれる統制経済を実施して、穀物の強制徴収や工場の国有化を進めた。  
→しかし混乱や生産意欲の減退を招き、経済は危機的状況となった。



対ソ干渉戦争

1918年、ウラジヴォストークで進行する外国軍。ロシア革命の成功は、列強に衝撃を与えた。



シベリア出兵のポスター

寺内正毅内閣の日本は、各国のなかで最大の7万人を派遣した。ポスターでは、ロシア人が日本軍を歓迎している様子が見えるが、実態は違った。



赤軍の結成

中央で演説しているのがトロツキー。赤軍は元々ボリシェヴィキの軍隊だったが、後にソ連軍と同義語となった。

## 3 世界革命論と経済の復興

・レーニンやトロツキーは、共産主義革命が成功するためには、世界各地（特にヨーロッパ）で革命が起こされる必要があるという（ ）を唱えた。

・第一次世界大戦終了後の 1919 年、各国の共産主義勢力を組織化するためモスクワで（ ）（第 3 インターナショナル）が結成された。  
→だがハンガリーやドイツの革命は短期間で挫折し、世界革命は達成できなかった。

・1921 年、戦時共産主義により極度に低下した生産を回復するため、食料の強制徴収の廃止や余剰農産物の自由販売を認める（ ）を開始した。  
→これにより経済は安定し、生産力は回復していった。

